（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令 和 7 年 度　学 校 自 己 評 価 シ ス テ ム シ ー ト （ 県立本庄高等学校　定時制課程）

n05

目 指 す 学 校 像	生徒一人ひとりを大切にし、社会で活躍し人生を豊かに生きる生徒を育成する学校

重　点　目　標	
	1　授業改善を進めて「質の高い学び」を実現し、基礎学力の向上と主体的に学ぶ態度を育てる。
	2　家庭との連携や生徒指導の充実を図るとともに、基本的生活習慣の確立に努める。
	3　進路意識とともに社会を生き抜くための人間性や社会性を育て、希望する進路を実現する。

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局（教職員）	名

学　校　自　己　評　価								学　校　関　係　者　評　価
年　度　目　標					年度評価（　月　日現在）			実施日　令和８年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 多様な生徒が在籍しており、個々の学習歴や日本語運用能力等に著しい差がある。 【課題】 全ての生徒が基礎的・基本的な知識及び技能を習得できるよう教育活動の充実を図るとともに、主体的に学習に取り組む態度を涵養することが求められている。また、生徒一人ひとりの学習歴や日本語運用能力等の状況を把握し、適切な支援を行う必要がある。	生徒一人ひとりの基礎学力の向上に資する「質の高い学び」を実現するための授業改善を行う。	①基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるよう、生徒の実態に即した授業の工夫改善を各教科等が行うとともに、習熟度に応じた少人数授業を実施する。 ②生徒の興味・関心を喚起するよう、タブレット等のＩＣＴ機器の活用や、教材・教具や授業展開の工夫を行う。	生徒対象の授業アンケートにおいて、①「授業の内容を理解できている」割合が 80%を超えているか。②「授業の内容に興味が持てる」割合が 80%を超えているか。				
		生徒一人ひとりの状況に応じた、適切な学習支援を行う。	①日本語支援員や学習サポーター等と連携して個々の生徒が有する学習上の課題に対して支援を行い、学習効果を高める。 ②生徒一人ひとりの学習の過程や成果を適切に評価し、指導の改善に取り組むとともに、教員間の情報共有を進めて、きめの細かい学習支援を行う。	①日本語支援員や学習サポーター等と連携し、学習上の課題がある生徒へ適切な支援ができたか。 ②生徒対象の授業アンケートにおいて、「授業の内容や先生の話を理解できているか」が 80%を超えているか。				
2	【現状】 基本的な生活習慣やコミュニケーションに課題のある生徒や様々な悩みを抱える生徒など、支援を要する生徒がいる。 【課題】 教職員が様々な場面で関わり、指導・支援を行う中で、基本的な生活習慣の確立を図る必要がある。また、家庭環境や生活状況等を適切に把握し、生徒が自己肯定感を高められる指導を、家庭や外部機関等と連携して行うことが求められている。	家庭や外部機関等と連携協力した生徒指導を行い、基本的生活習慣の確立や自己肯定感の向上に取り組む。	①教職員が統一した指導を行うことで生徒の遅刻や欠席を減らすとともに、授業への積極的な参加を促すことを通じて、基本的生活習慣を身につけられるようにする。 ②ＳＨＲ（新設）での指導や個人面談等を通して、生徒の悩みや現状等を把握する。また、生徒情報を教職員が共有することで、生徒理解をより深める。 ③各家庭との連携を図るとともに、スクールカウンセラーや外部機関等の協力を得ながら、生徒の自己肯定感を高め、社会を生き抜くための人間性や社会性を育成する。	①遅刻や欠席、授業参加について教員で統一した指導を行うことができたか。 ②ＳＨＲでの指導や個人面談等を通して生徒状況を把握したか。また、教職員で共有できたか。 ③各家庭との適時適切な連携が図れたか。また、スクールカウンセラーを活用した教育相談や外部機関等と連携した対応が効果的にできたか。				
3	【現状】 社会で活躍するために求められるスキルに課題があり、卒業後の進路に関して具体的な目標を描けない生徒がいる。 【課題】 生徒の進路希望を実現させるために、段階に応じたキャリア教育の実施等、一人ひとりに応じた進路指導を通して進路意識の向上を図ることが求められている。また、保護者や地域社会、企業等に対して定時制高校の教育活動への理解を促すとともに、定時制での学びを必要とする方に対して、丁寧かつ継続的な情報発信・情報提供を行う必要がある。	生徒の希望進路実現のために、一人ひとりに応じた進路指導を行う。	①就職支援アドバイザー等県の支援事業を活用し、進路実現のための支援を継続的に実施する。 ②ハローワークや地域の機関と連携し、生徒一人ひとりの適性を踏まえた適切な進路選択と進路意識の向上に向けた支援を行う。	①４年生が一人ひとりの希望や適性に沿った進路決定ができたか。また、他学年においても進路意識を高める進路指導を実施することができたか。 ②生徒対象の進路アンケートにおいて、「進路に関わる情報収集をしている」割合が 70%を超えているか。				
		定時制の教育活動を学校ホームページ等で紹介する等、保護者や地域社会等に対する広報活動を定期的・継続的に行う。	①学校ホームページ等で教育活動や生徒の様子等を定期的・継続的に発信する。 ②リーフレットを発行し、入学希望者や地域社会等に本校の良さや特徴を伝える。	①学校ホームページ等を定期的・継続的に更新しているか。 ②リーフレットを発行し、近隣の中学校等に配布する等、広報活動を適切に実施したか。				